

持続的な経済成長に向けた「グローバル戦略」及び「GX・エネルギー戦略」

2024年4月19日

十倉 雅和

中空 麻奈

新浪 剛史

柳川 範之

少子高齢化が加速する中で持続的な経済成長を実現するためには、①ASEAN・インド・アフリカ等のいわゆるグローバルサウスとの連携強化等により、我が国の生産性の引上げと経済安全保障の強化を図るとともに、②今後の競争力を左右するエネルギーについて、低コストで安定供給するとともに、我が国の強みを活かした革新的エネルギー技術の実装・海外展開により、エネルギーを成長産業化することが重要。こうした観点から、以下、提言する。

1. グローバル戦略

高い成長が見込まれるグローバルサウス等の海外活力を取り込むため、モノ(貿易拡大)、カネ(投資強化)、ヒト(人材強化)の観点から「グローバル戦略」を抜本的に強化することが重要。

- **【貿易拡大(モノ)】**中小企業の海外進出の抜本拡大に向け、海外販路開拓を支援しつつ、貿易DXと物流DXを組み合せ、サプライチェーン全体を一気通貫したデジタル化を。
- **【投資強化(カネ)】**我が国では対外直接投資が対内直接投資を大幅に上回り、企業部門が大幅な貯蓄超過となる中、①対内直接投資の拡大、②対外直接投資が日本に裨益する取組の強化を推進すべき(対外直投と輸出拡大の組合せ、対外投資収益の資金還流の促進等)。
- **【人材強化(ヒト)】**グローバルに活躍する人材を育成するため、初等中等教育段階からのグローバル教育・海外留学を推進。海外の高度若手人材の受入れに向けて、例えば、アジアのトップ人材受け入れのためのビザ取得要件の緩和、若手外国人の企業への就職・定着を促進。
- **【分野横断】**貿易・投資等の拡大に向けて、CPTPP/RCEP等の経済連携の強化が重要。その上で、グローバルヘルス分野での貢献拡大等、我が国の知見・技術も活用した地球規模課題解決の取組等によって、グローバルサウスとの関係強化を戦略的に進めるべき。

2. GX・エネルギー戦略

革新的な技術開発等によって、脱炭素・低コスト・安定供給を両立させるエネルギー需給構造を実現しつつ、エネルギー自給率を大きく高めることを目指して、KPIを掲げて取り組むべき。具体的には、以下のように、「GX・エネルギー戦略」を再構築することが重要。

- 当面は、エネルギーコストを抑制しつつ、再生可能エネルギーを最大限導入することとし、原発について、地元理解を得つつ安全性確保を前提に再稼働を進めることが重要。
- 将来的には、抜本的な脱炭素とコスト削減を両立する、技術革新によるブレークスルーが鍵。
 - ― GX投資の効果最大化のため、成果の見える化と進捗管理により投資対象を絞り込むべき。
 - ― 革新的な技術開発を進め、水素、浮体式洋上風力、ペロブスカイト太陽電池、二酸化炭素回収・貯留(CCS)、小型モジュール炉(SMR)、革新的原子炉(高速炉・核融合を含む)等から、国内の社会実装・商業化の道筋をつける中で日本の勝ち筋を見出し、海外展開を推進すべき。
 - ― 支援措置と規制措置を組合せることによる、省エネ・脱炭素分野での新需要創造(住宅・建築物の省エネ、EV/水素自動車等)と世界市場への進出を促進すべき。

3. 2つの戦略の実行におけるスタートアップの活用

上記の2つの戦略の実行においては、政府調達等を活用したスタートアップ育成によって、社会課題解決に向けた新技術の社会実装を加速することが鍵となる。

その際、日本人の起業家・従業員による、国内市場を重視した「国内型」のスタートアップ育成にとどまらず、海外スタートアップの誘致、スタートアップによる海外展開等を促進すべき。